

グルジア政治・経済 主な出来事

【2014年10月20日～2014年10月26日】

[当地報道をもとに作成]

平成26年11月7日

在グルジア大使館

主な動き

1. アブハジア・南オセチア

【アブハジア】

▼露・アブハジアの協定案をめぐる動き

・20日、カラーシン外務次官がザルバーEU南コーカサス特別代表と電話会談した。露外務省によれば、会談で「カ」外務次官は、露・アブハジア間の新たな協定がアブハジアの「併合」につながるとするグルジア側の主張を「不謹慎かつ危険な憶測である」と批判。また、露はジュネーブ会議の継続を重要視していると強調。

・22日TVでハジンバ「アブハジア共和国大統領」は、露の協定案について、一部は自身にとっても受け入れられず今後の協議に付されるべきであるとして、協定はロシアがアブハジアに押し付けようとしているものではないと述べた。また、協定案をめぐるアブハジア内の政治勢力が対立しないよう呼びかけた。

・22日、パエト・エストニア外相は、ロシアの提示した協定案は国際法の原則に反するとコメント。

・24日、ザルカリアニ・グルジア第一外務次官はグルジアを訪問したグネディンガ OSCE 特別代表と会談し、露の協定案に関するグルジア側の懸念を伝えた。

【南オセチア】

▼第49回IPRM会合(21日)

・参加者は行政境界線に沿った地域の治安状況、行方不明者・被拘束者、移動の自由や行政境界線の家畜の通過など地域住民の生活に関わる諸問題を建設的に議論。ホットラインを通じた情報交換や協力が効果的に行われていることが評価された。

2. 外 政

▼米空軍大將がグルジアを訪問(21日-22日)

・ブリードラヴ米空軍大將・米欧州軍司令官がグルジアを訪問。ガリバシヴィリ首相、アラサニア国防相と会談。

・「ア」国防相との会談後、「ブ」米空軍大將は、「グルジアが NATO との間に築いたパートナー関係は極めて強固である」と述べた。また、ロシアの行動により欧州は困難な状況にあるが、NATO は脅威を明確に認識しており、今後 NATO 諸国が迅速にこの種の脅威に対応できるよう措置をとっていると述べた。

・「ア」国防相は、会談でグルジアにおける NATO・グルジアの共同訓練センターの設置や NATO との定期的な共同軍事訓練の実施のほか、ウクライナやシリア、イラクの情勢を踏まえ、地域的な安全保障およびそれらの問題

に NATO とグルジアがいかに協力して対処するかについて議論したと述べた。

・「ア」国防相によれば、ダルチアシヴィリ国防次官が今週 NATO 本部にて実質的パッケージの実施計画を紹介した。実施計画は2015年2月の NATO 国防相会合で最終的に承認される予定。

▼チェコ国会の代表団がグルジアを訪問(21日-23日)

・チェコ国会上院欧州問題委員会の代表団がグルジアを訪問。ウスパシヴィリ国会議長、カラゼ・エネルギー大臣、ペトリアシヴィリ欧州・欧州大西洋統合担当国務大臣、ベルチャシヴィリ外務次官らと会談。

▼オゼル・トルコ軍参謀総長がグルジアを訪問(23日)

・ガリバシヴィリ首相、アラサニア国防相と地域情勢などについて会談。トルコ側はグルジアに対し NATO のパッケージの実施を支援する用意があることを表明。「ア」国防相は、トルコ・アゼルバイジャン・グルジアの軍事協力を深める必要性を強調した。

▼マルグヴェラシヴィリ大統領が訪日(21日-25日)

・24日、「マ」大統領は安倍首相と会談。両国の友好関係および基本的な価値を共有していることを確認した。安倍首相は国際平和に対するグルジアの貢献を評価。会談後、「平和と民主主義への連帯に関する共同声明」に署名した。また、「マ」大統領は日本語でのグルジアの呼称を「ジョージア」に変更するよう要請。安倍首相は検討を約束した。

・同24日、「マ」大統領はチチュア夫人とともに天皇皇后両陛下に謁見。

・「マ」大統領は他に岸田外相、西川農相、伊吹衆議院議長、谷垣自民党幹事長、日グルジア友好議連、JICA 理事長、日本財団会長、ロシア NIS 貿易会および経済同友会の代表者らと会談。日本記者クラブで記者会見を行なった。夫人とともに京都を訪問。

・今回の訪日について、「マ」大統領は、グルジア・日本関係は大きく前進したと評価した。

▼大統領がベルギー訪問を取り止め(24日)

・大統領は第一次世界大戦から100周年を記念する催しに出席するため10月28日にベルギーを訪問する予定であったが、28日にロシア・アブハジア間の協定案に関して安全保障会議を招集し、ベルギー訪問を取り止めた。催しには代わりにウスパシヴィリ国会議長が出席する。

3. 内 政

▼メラビシヴィリ元内相に対する有罪判決(20日)

・2006年に起きたサンドロ・ギルグヴリアニ氏殺人事件に関連し、トビリシ市裁判所は権力濫用があったとして、「メ」元内相に対し3年の禁固刑を下した。

▼アハライア元国防相に対する有罪判決(22日)

・トビリシ市裁判所はアハライア元国防相に対し、サンドロ・ギルグヴリアニ氏の殺人事件で投獄された4名の元内務省職員に刑務所内での特別な待遇を与えたことに関する権力濫用、および、2006年に起きた6名の受刑者に対する虐待の2件に関連して有罪を認め、7年6か月の禁固刑を言い渡した。

▼アディゲニ地区での騒乱(22日)

・アディゲニ地区モヘ村で、古い時代に一部がモスクとして利用されていた建物の取り壊しに抗議するムスリム住民と警官隊の間で衝突が起これ、内務省によれば14名が逮捕された。地方当局は既に半壊状態であった建物を図書館にすることを計画している。

・22日夜、政府の諮問機関である国家宗教問題局は、モヘ村での事件を憂慮しており、事件を詳しく調査中であるとして、問題は全ての当事者の合意に基づいて解決されねばならないとの声明を発表。

・翌23日、14名のうち3名は罰金なしで、11名は軽微なフーリガン行為により各250万ラリの罰金を支払って釈放された。

・ガリバシヴィリ首相は、事件についてコメントし、暴力を非難するとともに、全ての当事者に冷静になるよう呼びかけた。

・複数の市民グループは、警官が住民に対し過度の力を行使したとして非難し、政府のこれまでの対応を批判する共同声明を発表。

▼統一国民運動が抗議デモの予定を発表(25日)

・「ロシアによるアブハジアの併合」に抗議するためとして、統一国民運動は11月15日にトビリシ市中心部で大規模な抗議デモを開催することを発表。

グルジアが「経済・構造改革に力強く取り組んでいる」として、政治的安定性や汚職の減少を評価。また、DCFTAを含むEUとの連合協定への署名により、EU市場へのアクセスが容易になったことで、長期的な投資先としてのグルジアの魅力が増したとコメント。

・ハドゥリ財務相は、フィッチ社の評価の改善はグルジアの経済発展を促すだろうとコメント。

▼UAEの国際協力・開発大臣がグルジアを訪問(21日-23日)

・ガリバシヴィリ首相、ハドゥリ財務相、ダネリア農業相、グルジア企業の代表者らと会談。アラブ首長国連邦はグルジアとの協力を発展させる用意があるとして、特に農業分野への関心を表明した。

▼チヘンケリ経済担当首相補佐官の発言(22日)

・「チ」補佐官はTVで、2014年の経済成長率は6%を越えると予測。ウクライナやロシアがゼロあるいはマイナス成長、アルメニアの成長率が4%と予測されていることを考えれば、グルジアの成長率は大きな成功であると評価。2015年は更に安定的な成長が見込まれると述べた。

▼グルジア・カザフスタン・ビジネスフォーラム(22日)

・グルジア商工会議所とカザフスタン産業・投資発展省の主催でトビリシで開催されたビジネスフォーラムに、グルジア企業60社、カザフスタン企業15社の代表者が参加。

▼2014年1月~9月の貿易収支(24日)

・国家統計局が発表。貿易額8,376百万ドル(前年同期比10%増)、輸出額2,153百万ドル(同7%増)、輸入額6,223百万ドル(同12%増)。貿易収支は4,070百万ドルの入超。

・貿易相手国の内訳はCIS諸国31%、EU諸国26%、その他43%。国別では貿易額の多い順にトルコ、アゼルバイジャン、中国、ロシア、ウクライナ、アルメニア、ドイツ、米国、ブルガリア、日本。日本は第7位の輸入相手国(輸入額267百万ドル)。

4. 経 済

▼フィッチ社がグルジアの評価を見直し(20日)

・フィッチ社はグルジアの長期的見通しを「安定的」から「ポジティブ」へと引き上げた。信用格付けは「BB-」。